

令和7年度 広島市まちづくり市民交流プラザ 第2回運営委員会 会議録

日 時 令和7年12月11日(木) 16時00分～17時40分

場 所 合人社ウエンディひと・まちプラザ（まちづくり市民交流プラザ）

北棟6階 マルチメディア実習室

出席者 （委員）阿部委員、木谷委員、服部委員、藤原委員、脇谷委員

（プラザ）森原館長、石山主任

議事及び会議要旨（○運営委員 ・事務局）

議事1 まちづくり市民交流フェスタ2025のふりかえり

①来場者人数 レジユメのとおりで、昨年度比とほぼ同数。

②アンケート集計結果（資料に添って説明）

事務局から、対象毎にアンケート集計結果について説明し、意見が交わされた。

・参加団体（19団体）※12月2日時点

○無回答が多いのはどうしてなのか。

アンケートの内容が難しかったのか、会議に参加していなかったのか。わからない、ふつうという回答が無回答に該当するのではないか。会議に参加していない方が答えたのか等が考えられる。

○回答数が参加団体の半分以上を満たしていないため、アンケートによる要望を反映することが難しい。

・実行委員会の参加は、配信参加を希望する意見が全体の3割程度あった。実行委員会後の部会を行う上では、配信参加より対面で参加してもらう方が実施しやすいのではないかと。

・配信を希望する理由（土日だったら参加できる。時間が合えば参加できる）等を団体へ確認しなければならない。

○配信は嫌いなのですが、配信も取り入れることを考えていかなければならない。

場の状況に合わせて、考えていきたい。実行委員会の開催日程について考えるときに配信を取り入れなければいけないだろう。

○実行委員会に団体の代表が対面で出席しているが、団体の他のメンバーが実行委員会に参加したときに、音声だけでも参加できることでオンライン参加も質問があれば聞き取れるのではないかと。働き盛りの方が参加できる手法を一部だけでも取り入れていけばよいのではないかと。

○配信は一方通行になりやすいし、参加者の反応が分かりにくい。しかしながら、実行委員会へ参加しやすい方法を選ぶのであれば、配信も取り入れなければならないだろう。

○「疲れる人が少し休めるような椅子があればと思いました。」について、次回改善できないか。お茶を飲むスペースはあったが、少し休むスペースを作るなど考えていきたい。

・当日運営ボランティアアンケート（18人）

・満足度、今後もボランティアに参加したいかは、いずれも約94%。満足度の理由は、人との関

わりが増え、話すことが楽しかった。ボランティアに参加したことで、交流を図れた。

ボランティアに参加したい理由は、普段関わることのない人たちと関わり、企画を立てるのが楽しかった。就活で忙しくなるが自分にとって良い経験になるから参加したい等がある。

ボランティアとしてフェスタに関わった気づきは、フェスタに来場するターゲット層を事前に確認しイベントが企画できればよかった。遊ぶ相手の子のことを考えながら企画するのが難しかった。フェスタの感想は、小さい子や高齢の方と関わって、普段とは異なる年齢層の方の話や行動が自分の今後に生かせると思えた等がある。

- 学内で募集している掲示をみて参加した等、ボランティア団体による参加ではなく個人で参加する傾向が増えていることについて、評価できる。
- 普段関わることのない世代との関わりの中で交流することができたことが満足度の理由として挙げられていることは、将来地域でボランティアや活動をしていく上で期待が持てる。広島のを将来を担う若者が地域活動を継承してくれる。
- ・中区の高校へ積極的に配布し、広報チラシにはQRコードを掲載することで、ボランティアへの申し込みが容易に行うことに繋がったことが、参加者を増やす要因として挙げられる。
- 普段ボランティアをしたことのない方が参加するのであれば、6月から募集開始し9月下旬に募集締め切りを行い、10月に運営ボランティア事業を実施してはどうか。
- ボランティア企画講座は、早く実施してもあまり効果がないのではないか。
- 座学と企画を立てるボリュームのバランスを考慮することが課題であり、回数を重ねていき、何がよい方法なのかを見ていくのが良い。学生に飽きられないようなプログラムは、短期に集中して実施するのがよいと思う。
- 学生フォームへの広報は、長期休業中でも申し込みやすい方法である。
- 申し込みをしていたボランティアを、突然キャンセルする事例は他でも見られる。メールでキャンセルの連絡はよくある。魅力的なイベントであれば、ボランティアに参加する。
- 面白いイベントであればボランティアは盛り上がる。仕切ってくれる人がいれば付いていきたいと思う。
- 講座の様子を写真で見ると、講座に参加して楽しい様子がみられる。今年の参加者の何人かが来年も参加してほしい。核となって講座を盛り上げてくれることを期待したい。
- 学生以外の参加者があることから、世代を超えた参加者同士の交流ができることが楽しみである。

・来場者アンケート（43人）

- 高齢者がアンケートに答えていただける割合が高いから60代以上が多いのではないか。
- ・チラシポスター、市民と市政をみての来場が意外と多かった。はじめて参加したと回答が約半数。
- ・通りがかった方の参加が少なかった。本通りマルシェ以外にもゲートパークでのイベント等が実施していたことが影響し、フェスタ参加者が増加しなかった。
- ・広島を盛り上げる実行委員会が、ロボット犬による広報活動でイベントを盛り上げ、建物の外

に出てイベント周知を行う等、集客増を狙いとした取り組みをおこなった。

- アンケート回答数が増える工夫があるとよい。
- 来場者数はコロナ前に比べるとほぼ半数に減って、その後少しずつ人数が増えているがほぼ横ばいであることについて、どう考えているか。
- 他会場で実施しているイベントに比べて特色が異なるし、生涯学習の内容に興味を持っている方が対象となるイベントなので、来場者は特に次世代の方が増えていけばよいのではないか。袋町小学校の図画展示を見に来る方が増えていけばよい。
 - ・部会の開催の様子や、講座・講演会や社貢研による講座、あそびコーナーの写真をみながらふり返った。
- ロボット犬を写真入りでパンフレットに掲載すると集客が高まる。
- 今年の来場者からリピーターを得る工夫が必要ではないか。食バザーが集客を高めるきっかけになるので、なんとか食バザーを増やしたい。
 - ・食バザーも申し込みはあったが、結果的に食バザーを行う団体がなかった結果になった。
 - ・エルモふくろまちとの連携によるフェスタの実施を視野に入れて、計画を進めていきたい。
- 成果発表は地域の方と一緒に取り組めば、フェスタが盛り上がってくる可能性がある。
- 広島市民の幸せのためにイベント開催するのであれば、LMOと一緒にフェスタを行うのは良い。学生ボランティアは、10年から20年後に主役となってイベントを盛り上げてほしい。「あなたよし、地域よし、わたしよし」で進めていきたい。

議事2 まちづくり市民交流フェスタ2026の日程について

令和8年(2026年)は11月14日(土)・15日(日)は運営委員会で決定したので変更なし。

- ★まちづくり市民交流フェスタ2027の日程について(令和9年度)
- 本通りマルシェと重なり集客が高まることを期待したが、集客が難しかった。
- 5月実施のときは、フラワーフェスティバルへ出演した後のフェスタ実施で大変だった。
- 出演団体もよい、来場者も来やすい日はないものか。
- イベントが少ない2月、3月実施を計画すると、参加団体が出演しやすいメリットはある。
- 第3月曜日の前土日の実施は、プラザの意見を尊重したい。
 - ・屋外テントで実施する催し物が、2月開催になると寒さ対策が必要になる。
 - ・運営委員会での協議内容を基に職員ミーティングで再度協議し、第3回運営委員会で提示する。

【第3回運営委員会】

令和8年2月開催予定

閉会